

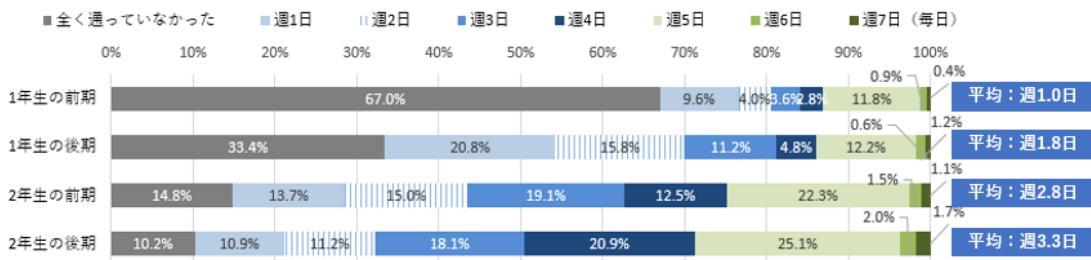
2024年度採用で“学生との関わり方”を改めて考えるために——。

Think
#01

本格リモートネイティブ世代の背景をまずは理解する。

参考：マイナビ 大学生低学年のキャリア意識調査

【図1】 大学への通学頻度 (n=471)



新型コロナウイルス感染拡大の話題は2020年の頭から目立ち始め、2020年4月7日に緊急事態宣言が出されました。学生生活と就活に置き換えますと、

- 2021卒・・・4回生からオンライン（就活途中でいきなり活動に変化）
 - 2022卒・・・3回生からオンライン（オンラインが出たすと違和感あり）
 - 2023卒・・・2回生からオンライン（オンラインがスムーズになった状態で就活）
 - 2024卒・・・1回生からオンライン（大学入学からオンラインが当たり前）
- となっています。つまり、2024年度採用から動く学生が完全リモートネイティブの世代となっています。

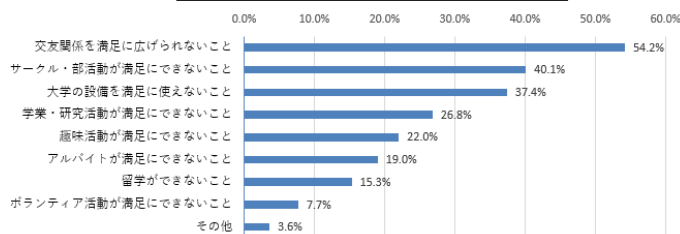
Think
#02

圧倒的に足りない経験とコミュニケーション、結果ガクチカが話せない。だからこそ、個別コミュニケーションの量を増やす。

新型コロナウイルス感染拡大によって大学生活が思い描いていたものとは違ったという声は圧倒的に多くなっています。特に交友関係、サークルなど経験値を積むコミュニティの欠落、その中で学ぶコミュニケーションの機会損失。これらは、大学生活の満足度にも大きく影響している事が考えられます。結果的に、満足度が下がっているため、学生時代に力を入れたことが見つからない、わからないという結果になっています。今後接触する学生は時間をかけて“個性”を見ること、そして引き出してあげる関わり方が必要です。

【図2】 大学入学以前に想像していた

大学生のライフスタイルと比べて特に不満なこと (n=471)



Think
#03

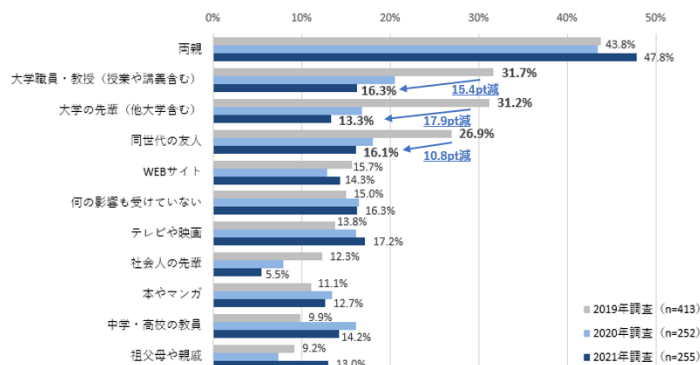
就活への影響の変化を意識した関わり方をする。

大学卒業後に自分が就きたい仕事・キャリアの方向性が決まっている学生に対して、どのような対象から影響を受けたかを聞いたところ、コロナ禍前の2019年調査の結果と比べて、もっとも差が大きかったのは「大学の先輩（他大学含む）13.3%」で2019年時から17.9pt減少しています。ついで「大学職員・教授（授業や講義含む）16.3%」が2019年調査時より15.4pt減少となっています。学内での交流を満足にできなかったことで、大学の先輩や教授などとキャリアの方向性を考えるきっかけとなるような会話をする機会が少なかったことが考えられます。

【図4】 将来の仕事・キャリアを考える上で

どのような対象から影響を受けたか（複数回答）

※2019年・2021年調査のどちらから上位10位に入った項目を抜粋



Z世代やリモートネイティブを考慮したうえで、採用フローを再度見直し、コミュニケーションの方法を検討することが重要です。そして、“個別化”を意識した関係性構築で就活充実度を高める関わり方が必要になります。